



【教育目標】 自ら学び正しく判断して行動する国際性豊かな児童生徒の育成を  
一人一人が輝く子どもの姿を求めて

☆1月の目標

- ☆学習をがんばろう
- ☆みんなと なかよくしよう
- ☆笑顔で

☆配布物のお知らせ

- 1 学校便り
- ☆保護者の会から

☆今後の行事計画

- 1月6日 3学期始業日
- 1月13日 高校説明会
- 1月20日 避難訓練
- 2月10日 入園説明会

☆二年三組

わたしはおねえさん  
弓立るな

国語の時間にわたしはおねえさんというお話を読みました。このお話は、歌を作るのがすきなすみれちゃんのお話です。すみれちゃんが外に出てじょうろで水やりをしました。その間に、すみれちゃんのへやで二才になった妹のかりんちゃん、すみれちゃんのノートにぐちゃぐちゃの絵をかいてしまいました。すみれちゃんは、なきそうになっただけではありません。わたしたったら、すぐにお母さんに見せて、妹をおこつてもらいます。すみれちゃんは、やさしいと思います。

☆二年三組

わたしはおねえさん  
山中 きぬ

わたしはおねえさんというお話を読みました。歌を作るおねえさんがいました。名前はすみれちゃんでした。コスモスに水をあげました。そしたら、かりんちゃんがすみれちゃんのしゅくだいにぐちゃぐちゃの絵をかきました。すみれちゃんは、おこつただけかわいかったです。絵をけしませんでした。わたしは、絵をけさなかつたところが心にのこりました。わたしだったら、お母さんに新しいノートを買ってもらいます。

☆二年三組

サンクスギビング  
七川 ゆい

わたしは、ワシントンD.C.に行きました。ホテルからホワイトハウスに行きました。その日は、お母さんのたん生日でした。ホワイトハウスは外から見るとすごく広そうに思いました。ホワイトハウスの中は、まよいそうでした。四十分も歩いてくたくたでした。スミソニアンナショナルエアアンドスペースミュージアムで、月の石をさわりました。つるつるの石で月の表面のどの場所の石かなと思えました。



☆二年三組

サンクスギビング  
下田かなた

ぼくは、アメリカに来てはじめてのサンクスギビングでした。でも、ぼくはこのことをしりませんでした。でも、おおかあさんから教えてもらって、少しベンキョウしました。その日は、テレビでパレードを見ました。そして、おにちゃんとおとうととゲームをしました。夜には、ターキーをたべました。ぼくは、はじめてターキーをたべました。ターキーは、やわらかくておいしかったです。また、ターキーを食べたいです。



☆六年一組

この絵、私はこう見る

吉村 泉希

ポチツ。池の中にサルが足を入れています。その周りには、いっぱい植物があり、他のサルもいる。緑々しい。ここはジャングルにちがいない。緑々した中に、きれいな赤、オレンジ、白い花が咲いていて、うっとりしてしまいそうです。遠くにいるサルを見ると、現実的に見えます。具体的に、その場に立っているみたいです。後ろのサル達に目を向けると、楽しそうに遊んでいるようです。これは、アンリ・ルソーが描いた「猿のいる熱帯の森」という絵です。この絵は、サルが森の中で楽しく遊んでいる物語かもしれません。天気が良い日で、暑い日です。だがサル達は元気いっぱい遊んでいます。一匹のサルは暑すぎて、池の中に足を入れています。子どもは、遠くまでいって遊んでいます。サルだけではなく、ヘビも外に出ています。日なたぼっこをしていると思えます。この絵を見た人は、いろんな質問を思いつくと思います。前に座っているサルは、何を手に持っているのか。どこのジャングルなのか。見た人は、自然に困られて、きれいな場所だと感じると思えます。私も行ってみたいと思いました。



アンリ・ルソーの絵画

幻想の画家、素朴派ルソー91作品を収録

☆六年一組

鳥獣戯画」を読む

鈴木 涼花

「まてー」兎が大声でさげぶ。何もかも草むらで兎はさるを追いかけてる。追いかけてるのさるだけじゃない。蛙も必死に追いかけてる。そしてついに兎はさるにおいついた。兎は急いでさるがもつていた蛙を「

この絵は、実際に兎、蛙、さるが走っているようだ。蛙のうしろには線が3本かいてあって、一生けん命走っているようだ。2つ目のパートは、本当に蛙がたおれているように見える。この絵は、鳥獣人物戯画「甲巻、通称「鳥獣戯画」の一場面。きつとこの絵にはこんな物語があるのさる。まずこの絵は、食物を持ったさるを追いかける兎と蛙さる。そして、ようやくさるをつかまえてうしろを見てみると、ぐったりと横になってる蛙がいた。他の動物たちは、その蛙を心配そうに見ている様子だと思ふ。多分この絵を見た人は、なぜ蛙がたおれているのか疑問に思ふさる。そして、日本がこんな昔からすばらしい絵をかいていたことにおどろくことさる。



☆六年一組

鳥獣戯画」を読む

グリグーティス 晶子

「かえるさん、大丈夫かい。」たおれているかえるのことを心配して、かけつけてくるうさぎと、他のかえる。これは、多分あのかえるのしわざだよ。」きつねたちが言う。「かえるさんのかたきだ！」さるを追いかけるうさぎが「。動きのある動物が、飛び出しているように描かれている。

この絵は、鳥獣人物戯画「甲巻、通称「鳥獣戯画」の一場面。きつとこの絵にはこんな物語があるのさる。この場面は、もしふきだしがあつたら、「ええい！」「得て！」などと書いてあると思ふ。仲間がたおされたうさぎの勢いが伝わってくる。

☆六年一組

鳥獣戯画」を読む

近藤 和暉

「だいじようぶか！」何やら集まって、ざわざわしている動物たち。そのまん中には、両手両足をだらんと広げたかえるが。「かえる君の仇！」と言いつける情熱的なうさぎ君。「いや、誤解だよ」と言い訳しながらにげていく猿は、みんなの敵。毛がとてもしなふさそうで、ポーズも人間と動物、どちらにも当てはまるようになってる。木の枝のしなりや風にふかれてる毛まで、リアルに描かれていて、まさに名作。

この絵は、鳥獣人物戯画「甲巻、通称「鳥獣戯画」の一部だ。きつとこの絵にはこんな物語があるのさる。猿君とかえる君が、ふざけてちゃんばらをしてた。「えい！」と猿君が木の枝をふると、「ゴツン！」とかえる君の頭に。かえる君は意識不明に。かげからこっそり見ていたかえる君の親友、うさぎ君が「得て！」と猿君を追いかける。「さ、誤解だよ！」と言うころには、みんなの視線はすべて猿君に。この絵を見た人は、こんな大昔におもしろいと思ふまんがあるなんて、びっくりすると思ふ。きつと、描いた人は、自由な心を持っているのだと思ふ。

☆六年一組

鳥獣戯画」を読む

村重 太陽

待て。待てよ。秋草と花が生えている池の野原で、うさぎとさるがおにごっこ。おにはうさぎ。にげるのはさる。うさぎは木を持ちふりまわす。これはさるもさるもおどろきをかくせない。かえるも止めようとしている。パン！うさぎが「。筆者は、線だけですみからすみまで語っている。これは鮮やかと言っている。表情や周りの物まで、線で鮮やかに描かれている。目や口を見ただけで、ごめんよーと書いて、まるで動物が遊んでいるよう。

この絵は、鳥獣人物戯画「甲巻、通称「鳥獣戯画」の一場面。きつとこの絵にはこんな物語があるのさる。この場面は、きつとこのうさぎが悪ふざけをして、まちがえて蛙をたたいてしまった所さる。ごめん。うさぎは笑いながら言った。これも悪ふざけ。しかし仲間のかえるがおこっている。しつかりあやまれ。きつねはおこっているかえるを落ちつかせようとしている。しかし、たおれているかえるも、少しさる。さるだんに見える。この絵は、さるだんが多さる。さるだん。しかし、動物をかんさつしたうさぎがかかれてる。多分筆者は、かいていると中、筆が止まらなかつたと思ふ。少しさる。だんでおもしろい。多分そんな物語にしたか。たと筆者は思つたさる。

